

一般質問 議:議員/理:理事者

- 学校給食について
- 高齢化社会に対応する"買い物弱者"への支援について

その他の質問

・婚活事業について ・地域住民が気軽に立ち寄れる場所、サードプレイスについて
・教育会館、中央公園の改修について
・勝山市制70周年を記念した、ご当地グルメ期間限定メニューの提供について



浦上雄次 議員



議 国が有機農業の拡大に力を入れる中、給食に利用する市町村は増加傾向にあり、国の調査では140近くになる。人間にとって食というのは命そのものであり、「命を大事に」という教育を食からも学ぶことができれば、その子ども達も基本的なことを次世代に伝えていってくれるであろうと思う。できるところから少しずつ計画を立てて、オーガニック給食の実現に向けていけたらと考えるが、市の見解を伺う。

理 当市においては過去に、地域の方からお声がけをいただいた学校で、イベント的にオーガニック給食が取り入れられたことがあり、児童や教職員からは非常に好評であった。

しかしながら、オーガニック給食を継続的に実施するには、費用面や調達面等で課題も多いことから、スポット的に有機農産物を取り入れた給食を実施する等、地元の生産者の方等とも協力しながら、保護者や生産者に無理のかからないスキームの構築について研究していきたい。

議 総務省では高齢者等を中心に食料品の購入や飲食に不便や苦勞を感じる方を「買い物困難者」「買い物弱者」として位置付けている。高齢化社会に対応するべき内容について必ず予想される買い物弱者に対してのサポートは、勝山市としてどう考えているか。

理 市では、市社協に委託して、地区社協を中心とした買い物支援事業に取り組んでいる。この事業は地域において、地区社協のコーディネーターが中心となり、地域のボランティア、介護保険施設、介護サービス事業所等の協力を得ながら、デマンドバスやタクシー等も利用して、交通手段のない高齢者が自身で買い物に出かけられるよう支援するものである。これまで、平泉寺、村岡地区において実施し、今年度からは新たに、遅羽、北郷地区においても実施している。また現在、市社協、地区社協、ボランティア、民生委員、交通業者、商業施設、介護サービス事業所、介護保険施設、市の各担当課等と情報交換の場をもち、地域の現状把握や今後の取組について検討を行っている。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 高齢者支援について
- 市と勝山高校の連携・協働について

その他の質問

・自治体経営について
・ジオパーク活動について
・スポーツによる地方創生について



竹内和順 議員



議 高齢者の一人暮らしの生活が市内各地で散見される。各地域による支え（互助）も限界がきているのではと思われる。過疎地域に限らず、互助に代わる高齢者支援のあり方について検討する時期に来ているのではと考える。民間企業や過疎地域の住民組織が、新たな形で生活支援サービスを提供する動きも出てきているが、市の見解を伺う。

理 社協や、民生委員、交通事業者、商業施設、介護サービス事業所、介護保険施設等が協力して買い物支援を行ったり、市内高齢者宅への配達や集金業務等を行う事業所と連携して高齢者の地域見守り協定を締結したりする等、市ではきめ細やかな高齢者支援を行っている。またNPO法人がコミュニティセンターの指定管理を受ける中で高齢者サービスにも取り組んでいる。

人口減少により地域コミュニティが縮小、共助の力が弱体化するにつれ、高齢者の見守りや生活支援のソーシャルビジネスあるいはコミュニティビジネスの増加が考えられる。公的支援と民間事業者等との連携を研究していく。

議 勝山高校の存続は市民全体の問題と考える。県立の勝山高校を“市立”のように愛着を持って、地域が勝山高校を支援し続け、総合計画に勝山高校について記載する、県と市の「設置者の枠」を超えられない側面はあるものの、協議会等を設置し、地域で勝山高校を支援する体制づくりをする等、市の考えを伺う。

理 勝山高校については、特に探究学習を通じて地域住民や事業者、地域産業等の地域資源と連携する場面や活動が多くなっており、こうした動きをさらに進めていくことが、今後の勝山高校の更なる魅力化、活性化に繋がると考える。そのためには、勝山高校や県教育委員会と協働し、地域資源を活かした連携を図る仕組みづくりや中心となるコーディネーターの配置等が重要であるとともに、市内小中学校と高校の連携を進めることで、地域と学校が育んできたつながりを継続的なものとしていくことも有効と考える。子ども達が勝山で学ぶ優位性を高め、愛着を深めながら学ぶ環境を整備したい。